埼玉県公立高校入試問題

二〇一七年度

五〇分
一〇〇点

一

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

> 高校三年生の「私」（宮本知咲（みやもとちさき））は放送部の部員である。五月になり、Ｎコン（ＮＨＫ杯全国高校放送コンテスト）の参加申し込みの締め切りが近づいている。知咲は、部長の三浦有紗（みうらありさ）から、昼休みに部室に姿を見せない一年生、森唯奈（もりゆいな）の面倒をみるように頼まれていた。

電車が揺れている。つり革が、右から左に揺らいでいる。紺色のシートに座り、スクールバッグの中から私は一冊の文庫本を取り出す。今年の朗読部門の指定作品のうちの一つだった。読みすぎたせいか、その表紙は不自然な形に折れ曲がっている。ページをめくると、黄色の蛍光ペンが様々な箇所を塗り潰しているのが分かる。細やかな文字が滲（にじ）み、白い紙面はわずかに黒く濁っていた。

「『でも、伝えようとしなきゃ、なんにも始まらないんだよ。』」

無意識の内につぶやいたのは、指定作品の一節だった。少女たちが互いに本音をぶつけ合う、小説内のワンシーン。紙面に引かれた黄色の線を指でなぞり、私はそっと目を伏せる。

朗読部門で一人の発表者に与えられる時間は、一分三十秒から二分の間だけだ。それよりも短すぎてはいけないし、長すぎてもいけない。参加者たちはその時間内に収まるように苦心しながら、自分の表現したい場所を選ぶ。

私は何をしたいんだろう。①<u>薄っぺらな文庫本を片手に、揺れるつり革をぼんやりと眺める</u>。去年の私もこうやって指定作品に蛍光ペンで線を引いた。自分が発表するならここを読みたい。そう思って、真っ直（す）ぐな線を引いていた。だけど、結局私が舞台に立つことはなかった。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

――二年前のあの日から、私はずっと現実から逃げ続けている。

防音用の扉を開けると、靴箱にはピカピカの上履きが一足だけ入っていた。どうやら先客が一人いるらしい。私は奥にある放送室のドアノブをゆっくりと捻(ひね)った。

「『でも、伝えようとしなきゃ、なんにも始まらないんだよ。』」

耳に飛び込んできた声音は確かな熱をはらんでいた。薄桃色の唇から零(こぼ)れた台詞(せりふ)が、年季の入った灰色のマットへと吸い込まれていく。

森唯奈だ、とそこで私は目の前にいる人物を認識した。

「あー……その場面、いいよね。私も朗読するならそのシーンだなって思ってたんだ。」

本を指さし、とりあえずは当たり障(さわ)りのない言葉を投げかけてみる。

「私、宮本知咲。仲良くしてくれると嬉(うれ)しいんだけど。」

「せ、先輩ですよね。あ、私、あの、森です。あの。」

「森唯奈ちゃんだよね？　知ってる知ってる。」

こちらが頷(うなず)いてやれば、唯奈は顔を赤らめたまま俯(うつむ)いた。その指先が落ち着きなく文庫本の端をつかんだり離したりを繰り返している。

「指定図書持ってるってことは、唯奈ちゃんは朗読部門に出るの？」

「あ、いえ、どっちにするか悩んでるところです。」

「確かに悩むよね。まあ私は唯奈ちゃんの声はアナウンス部門向きだと思うけど。」

「先輩、私の声を聞いててくれたんですか。」

「そりゃそうでしょ。可愛(かわい)い後輩なんだから。」

「わ、わたし、嬉しいです。②先輩、優しいですね。」

優しい。その言葉に、私は思わず苦笑した。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

じゃあ、優しくない私のことは嫌いなの？

浮かんでくる疑念をぶつけたら、きっと相手は私のことを面倒がるだろう。だから私は何も言わない。優しい人間を装うのは、ぶつかり合うよりずっと楽だ。相手に合わせて自分の意見を胸中で握り潰す私のことを、人々は心の優しい人間だと評する。

「先輩は朗読とアナウンスのどっちに出るんですか？」

「え、いや……。」

咄嗟に私は言葉を濁した。バッグの中には本屋で買った薄っぺらい文庫本が入ったままだった。そこにはいくつも蛍光色の付箋が貼ってあるし、ペンで書き込んだ跡もある。捨てきれない未練と執着が、ページの間に折り重なるようにして挟まっていた。

「私、先輩と一緒ならNコンも頑張れる気がします。」

そう屈託なく微笑む唯奈に、私はただ曖昧な笑みを返すしかなかった。

高校一年生のNコンの本番で、私は緊張のあまり意識が飛んだ。ファイルに挟んだ原稿用紙は何度も見返していたはずなのに、その時には視界が真っ白になって一文字も見えやしなかった。声を出さなければ、そう思った。なのに、私は何もできなかった。気が付いたときには本番は終わっていて、顧問は労わるように私の肩を優しく叩いた。そこに示された同情に、私は他者の目に己がひどく惨めに映っていることを悟った。

言葉を交わしたことをきっかけに、唯奈は私の後を追いかけてくるようになった。この日の練習でも、唯奈は私の顔を見るなりバタバタとこちらに駆け寄ってきた。

「原稿のことで悩んでるんです。どうしようかなって。」

そう言って彼女はトートバッグから、ピンク色のクリアファイルを取り出した。

「原稿を作るの、初めてで。」

「唯奈ちゃん、結局アナウンス部門に出ることにしたんだ？」

「はい。知咲先輩が、私の声がアナウンス向きだって言ってくれたんで。私、知咲先輩にそう言ってもらえてすごく嬉しくて。」

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

私の名前を、彼女は大切そうに何度も紡(つむ)いだ。宝物だと言ってガラクタを抱きしめる、幼い子供みたいに。

「それで、その原稿っていうのは？」

唯奈がおずおずと原稿用紙を差し出してくる。四百個のマス内は丸っこい文字でびっしりと埋め尽くされていた。書いては消してを何度も繰り返しているのだろう、紙面のところどころに鉛色の汚れが付着している。私は、汚さないように細心の注意を払いながらそれを受け取った。

「すごいね、全部自分で書いたんだ。唯奈ちゃんって中学から放送部？」

「い、いえ。高校になって、初めて入りました。」

「へえ。なんで入ろうと思ったの？」

私の問いに、唯奈はごくりと唾をのんだ。その柔らかそうな喉が微(かす)かに震える。彼女は一度大きく息を吸い込むと、勢いに任せて言葉を吐いた。

「伝えたいことを伝えるのが、へたくそだからです。」

そうなの？　と、私は小さく首を傾(かし)げる。唯奈は顔を赤らめたまま、そうです、と頷いた。

「私、昔から自分の気持ちを伝えるのが、その、苦手で。だから、そんな自分を変えたいと思ったんです。人前で話す練習をすれば、私も変われるんじゃないかって、そう思って。」

「変われそう？」

「わかんないです。でも、私、こうやって誰かに伝えるために自分で文章を書いたり直したりするのって初めてで。なんか、頑張りたいなって、そう思ってます。」

唯奈の指が、落ち着きなく自身の前髪に触れた。

「先輩は、Ｎコンに出ないんですか？」

その問いに、私は一瞬言葉を詰まらせた。

「出るつもりはないかな。」

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「なんでです？」

「うーん、なんとなくかな。」

曖昧な微笑。曖昧な返事。私が他者に見せる感情はいつだって、水で薄めた絵具みたいに芯がなくてぼんやりしている。他人に本音を見せるのが恐ろしくて、だからこんな風にめいっぱい希釈した言葉しか私は相手に伝えられない。

一瞬だけ、唯奈の表情に影が過(よ)ぎった。彼女はまるで自分を励ますかのように、ぎゅっと自身の手を握りしめた。

「でも、私、先輩が一緒にNコン出てくれたら嬉しいです。先輩だけが頼りなんです。」

帰り道。夕日は既に沈もうとしていた。③原稿の端を握ったままの唯奈は、私が添削した部分を嬉しそうに何度も指でなぞっていた。赤いボールペンで偉そうに書き込まれた文字は、すべて私のものだった。これまでの部内練習で先輩から口を酸(す)っぱくして言われてきたことを、そのまま私も唯奈へと伝えた。アナウンス部門では原稿の出来も重要だ。言い回しや表現を何度も試し、一文字一文字を推敲(すいこう)していく。単語の横に引かれた青い波線はアクセント注意のマークだった。

「先輩、今日はありがとうございました。」

唯奈がはにかみながら、しかしはっきりとした声で私に告げる。

「ふふ、大したことしてないよ。」

「そんなことないです。私、先輩には本当に感謝してるんです。先輩に会えたから、放送部に入って良かったなって、本気で思ってるんですから。」

熱っぽく語る唯奈に、私は思わず吹き出してしまう。大げさすぎない？　と尋ねるが、彼女は真面目な顔でその言葉を否定した。

「私、意気地なしだから、誰かから優しくされるのを待っちゃうんです。他の一年生の子たちは中学の頃からの友達だったみたいで、なんかうまく溶け込めなくて。だからスタジオとかでは一人で練習してたんです。録音練習なら、友達がいなくても自分でチェックできるから。」

「あー、だからいっつも声録(と)って練習してたんだ？」

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

「はい。けど、最近は先輩がいるから、毎日練習に行くのが楽しいです。」

④ストレートな感情をぶつけられ、一瞬息が詰まった。唯奈の背筋はぴんと真っ直ぐに伸びていて、その目は前だけを向いていた。新品同様の彼女のローファーが、力強くアスファルトを蹴る。唇から覗（のぞ）く白い歯がなんだかまぶしくて、私は思わず目を伏せた。

「あ。」

横断歩道に差し掛かったとき、唯奈が慌てたように声を発した。歩行者用の信号機が、青い光を点滅させている。思わず足を止めた私とは対照的に、唯奈はぱっと駆けだした。引かれた白線を軽やかに踏み、彼女はそのまま向こう側へと渡り終えた。

振り向いた彼女が、無邪気に私へ問いかける。長い髪がさらりと翻（ひるがえ）るのが、まるでスローモーションのように見えた。

「先輩、こっち来ないんですか。」

信号が赤に変わる。車は来ない。しんと静まり返った道路を挟み、私と唯奈は見つめ合った。鞄（かばん）がやけに重い。吹き抜ける風は生ぬるく、私をひどく不快にさせた。

「うん、まだ。」

⑤私は、足を踏み出せなかった。

（武田綾乃（たけだあやの）「白線と一歩」より。一部省略がある。）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

問1　①薄っぺらな文庫本を片手に、揺れるつり革をぼんやりと眺める。とありますが、このときの「私」の心情を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア　朗読したいシーンは見つかっているが、Nコンに参加するかどうか迷っている。
イ　指定作品を何度読んでも、自分が発表する読みたい場所が決まらず悩んでいる。
ウ　昨年も同じ指定作品に蛍光ペンで線を引いたことを、なつかしく思い出している。
エ　自分が発表したいと思う場所を、どうやって時間内に収めようか苦心している。

問2　②先輩、優しいですね。とありますが、「私」は、自分が優しいと言われることについて、どのように考えていますか。次の空欄にあてはまる内容を、三十字以上、四十字以内で書きなさい。

「私」が優しいと言われるのは、（　　　）からだ、と考えている。

問3　③原稿の端を握ったままの唯奈は、私が添削した部分を嬉しそうに何度も指でなぞっていた。とありますが、これと同じ唯奈(ゆいな)の心情が、比喩を用いて表現されている連続する二つの文を本文中から探し、最初の文のはじめの五字を書き抜きなさい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問4　④ストレートな感情をぶつけられ、一瞬息が詰まった。とありますが、これは、「私」がどのような唯奈の変化に気が付いたからですか。次の空欄にあてはまる内容を、**本音**、**苦手**の二つの言葉を使って、三十五字以上、四十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。

（解答欄）　　　　に気が付いたから。

問5　⑤私は、足を踏み出せなかった。とありますが、これは、「私」のどのような様子を表していますか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア　部長の有紗（ありさ）に頼まれて、とりあえず「私」から声をかけたが、予想以上に成長していく唯奈に対し、これからどう指導するかを決められずにいる様子。

イ　友達を頼らず一人で黙々と練習を重ねて実力をつけてきた唯奈に対し、先輩から言われたそのままを、偉そうに原稿に書き込んだことを恥じている様子。

ウ　「私」との出会いをきっかけにして、変わりたい自分に向かって力強く進んでいく唯奈に対し、現実から逃げ続ける今の自分から抜け出せずにいる様子。

エ　「私」の助言に従い、アナウンス部門での入賞を目標に原稿作りに取り組む唯奈に対し、曖昧で無責任な助言をしたことに後ろめたさを感じている様子。

（解答欄）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

二

次の各問いに答えなさい。

問1　次の――部の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に改めなさい。

(1)　話の輪郭をつかむ。

(2)　美しい旋律が流れる。

(3)　はさみで布を裁つ。

(4)　要点をカンケツに述べる。

(5)　休日はモッパら読書をして過ごす。

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
		つ		ら

問2　次の＝＝部「ない」と同じ品詞であるものを、ア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

清（きよ）が物をくれるときには、必ずおやじも兄もいないときに限る。俺は何が嫌いだといって、人に隠れて自分だけ得をするほど嫌いなことはアない。兄とはむろん仲がよくイないけれども、兄に隠して清から菓子や色鉛筆をもらいたくはウない。なぜ、俺一人にくれて、兄さんにはやらエないのかと清にきくことがある。

（夏目漱石（なつめそうせき）「坊っちゃん」より）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問3　次の――部が似た意味の漢字で構成された熟語になっているものを、ア～カの中から**すべて**選び、その記号を書きなさい。

ア国立公園でイ登山をしたときに見つけた珍しい植物のウ種類について、エ駅前の図書館で、オ是非ともカ詳細を調べてみてください。

問4　次のア～エの――部と＝＝部の文節の関係のうち、補助の関係にあるものを一つ選び、その記号を書きなさい。

ア　青い 空を
イ　高く 速く
ウ　飛んで いるのは
エ　新型の 飛行機だ。

問5　次の慣用句や四字熟語に関する会話の空欄Ⅰにあてはまる内容として最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。また、空欄Ⅱにあてはまる言葉を**ひらがな四字**で書きなさい。

Aさん「『口』を使った慣用句や四字熟語にはどのようなものがあるでしょうか。」
Bさん「慣用句には『食べ物に対する好みがぜいたくになる』という意味で使われる『（Ⅰ）』などが、四字熟語には『異口同音』などがあります。」
Aさん「『異口同音』は、『多くの人が同時に同じことを言う』という意味の慣用句である『口を［Ⅱ］』と似た意味をもつ四字熟語ですね。」

ア　口をきく　　イ　口がこえる　　ウ　口にあう　　エ　口がうまい

Ⅰ
Ⅱ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

たとえばここに一枚の絵があるとする。その価値はどうやって決まるのだろうか。いや、そもそも絵画作品について価値を決定することは可能なのだろうか。

「価値」ではなく「価格」であれば、いわゆる市場原理、すなわち需要と供給の関係によって決まると考えられる。絵画作品のオリジナルは一枚しか存在しないので、それに対する社会的需要が大きければ大きいほど値はつり上がる。たとえばかつて日本では、ゴッホの『ひまわり』が約五十八億円で購入されたという話があった。このほかにもピカソやムンクなど、その作品が百億円を超える価格で売買された例は少なくない。

これら著名な画家の代表作であれば、常識を超えた価格で取引されるのも当然という気がする。だが、ではその絵に本当にそれだけの「価値」があるのかとあらためて問われると、言葉に詰まってしまう人が多いのではなかろうか。ある絵画が百億円で取引されたということと、その絵画に百億円の価値があるということは、［Ⅰ］。

確かに同じひまわりを描いた絵でも、無名画家の作品だったら数万円程度で買えるのに、ゴッホの作品だと数十億円もする。しかしそれはけっして、ゴッホの絵が無名画家の絵より十万倍すぐれており、十万倍の感動を人に与えるということを意味しているわけではない。絵画がもたらす感動は定量化できるものではないのだから、数値に置き換えることなど不可能である。だからゴッホの作品自体に、描かれた時点ですでに数十億円に相当する客観的な価値が内在していたわけではないと考えるのが自然であろう。じっさい、生前のゴッホの絵が一枚しか売れなかったというのは有名な話であるし、その価格も現在の日本円でせいぜい数十万円といったところであった。

となると、①彼らの作品に高い価値が付与される社会的なメカニズムがどこかで作用したと考えざるをえない。ここでピエール・ブルデュー※の議論を参照してみよう。彼は、次のように述べている。

芸術作品の価値の生産者は芸術家なのではなく、信仰の圏域としての生産の場である。それが芸術家の創造的な力への信仰を生産することで、フェティッシュとしての芸術作品の価値を生産するのだ。

文脈ぬきでいきなり読むと若干わかりにくいかもしれないが、「信仰の圏域としての生産の場」とは要するに、作品の作り手が組み込ま

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

れている人間関係や社会的制度の総体のことである。ブルデューによれば、芸術家自身がみずからの意志と能力だけで独自に価値を創造するわけではない。そうではなく、彼（女）が身を置いている「生産の場」のさまざまな力学作用の結果として、その芸術家が「創造的な力」に恵まれた特殊な存在であるという共通の認識（客観的な根拠をもたないがゆえに、ブルデューはこれを「信仰」と呼んでいる）が形成され、その作品が一種の「フェティッシュ」（無条件の崇拝対象）として価値を付与されるというのである。

　絵画についていえば、この「生産の場」は画家以外に美術評論家、ジャーナリズム、絵画愛好家、画商、美術館、一般観衆、等々によって構成されている。たとえばゴッホは生前はまったく無名であったが、死後、一部の美術評論家たちがその作品を再評価しはじめると、絵画愛好家たちはこれを入手したいという欲求を抱く。すると画商たちが需要の増大に応じて彼の作品の値段をつりあげ、裕福な個人や権威ある美術館がこれを高額で買い取るようになる。その結果、ゴッホはそれだけの評価に値する偉大な芸術家であるという共通了解（信仰）が、一般観衆のあいだに形作られていく。そしていったん名声が確立すると、以上のような価値創造のサイクルが加速度的に拡大し、彼の絵は世界的な有名画家の貴重な作品（フェティッシュ）として認知されるに至る。もしかすると数万円でしか取引きされなかったかもしれない作品が数十億円で売買されるという手品のような現象は、このようにして可能になるのである。

　では文学の場合はどうだろうか。出版物としていくらでも複製可能である文学作品には、絵画作品のような「物としての唯一性」が存在しないので、②価格決定のメカニズムはまったく異なっている。たとえばダンテの『神曲』は価値ある作品として長く受け継がれているが、刊行されている書籍自体の値段は一般の書物と変わらない。つまり文学作品については価値と価格の対応関係がほとんど存在しないので、絵画のケースよりも純粋に「価値」の問題が浮き彫りにされやすいともいえる。

　文学における「生産の場」を構成するのは、作家、出版社、編集者、批評家、ジャーナリズム、読者、等々である。ある作品が編集者の目にとまって出版され、新聞や雑誌で批評家の称賛を受け、場合によっては賞などの制度によって付加価値を得て世に送り出されると、その作者は価値ある存在として認定され、やがては名声を獲得し、作品の安定的な供給者としての地位を築いていく。

　こうした一連の過程を経て、私たちは現時点での作家地図とでもいうべきものを手にしている。世界的なスケールでその頂点に位置するのは、シェイクスピア、ゲーテ、ドストエフスキーといった面々であり、日本に限っていえば夏目漱石（なつめそうせき）や森鷗外（もりおうがい）といった名前が上位にくるであろう。そして彼らの作品は、しばしば「不滅の古典」「永遠の名作」といった言葉で聖別され、不変の価値をもつものとして継承さ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

れていく。

　では、これらの作家たちの作品には果たして「客観的な価値」が宿っているのだろうか。「主観的」という言葉が「人によって異なる」ことを意味するのであれば、「客観的」という言葉はこれとの対比において「誰にとっても同じ」ことを意味するはずだが、ゲーテの『ファウスト』やドストエフスキーの『カラマーゾフの兄弟』は、誰にとっても等しく価値を有しているといえるのだろうか。読者の中には、これらの作品を退屈としか感じない者も必ずいるだろうし、デュマ・ペールの『三銃士』のほうがよほど価値ある作品であると考える者も少なからずいるのではあるまいか。

　絵画や音楽についても、話は同様だ。「誰が観ても美しい絵画」や「誰が聴いても感動的な音楽」など存在しない。レオナルド・ダ・ヴィンチの『モナリザ』が名画であるとか、ベートーヴェンの『第九交響曲』が名曲であるとかいったことは、あたかも万人の認める普遍的真理であるかのように思われているが、それも③「生産の場」によって社会的に形成された一種の神話、ブルデュー言うところの「信仰」にすぎないのであって、これらの作品に万人が共有する客観的な価値が内在しているわけではないのである。

　ここで私たちは、そもそも「客観性」とはなにか、という問いに突き当たらざるをえない。アメリカの科学史家であるセオドア・M・ポーターは、「多くの場合、客観性は厳密に定義されていないにもかかわらず、賞賛にも非難にも引き合いにだされる。」と述べている。つまり「客観性」とはいつでもどこでも同一性を保持する不変不動のものではなく、特定の局面に応じていかようにも規定されうる曖昧さをはらんでいるがゆえに、立場によって「賞賛にも非難にも」使い分けられる政治性をはらんでいる。※逆説的な言い方をすれば、およそ「誰にとっても同じ」客観的な定義を付与できないところにこそ、「客観性」の本質があるのだ。

（石井洋二郎・藤垣裕子「大人になるためのリベラルアーツ」より。一部省略がある。）

（注）　※ピエール・ブルデュー……フランスの社会学者。（一九三〇〜二〇〇二）

※逆説的……普通とは逆の方向から真実を述べるさま。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問1　本文中の空欄 I にあてはまる内容として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア　同義にはなりえないからだ　　イ　同義にならざるをえないからだ
ウ　ほとんど同義であるからだ　　エ　必ずしも同義ではないからだ

問2　①彼らの作品に高い価値が付与される社会的なメカニズムとありますが、このメカニズムを、具体例を用いて述べている段落（形式段落）を本文中から探し、その最初の五字を書き抜きなさい。

問3　②価格決定のメカニズムはまったく異なっている。とありますが、次は、筆者が考える絵画作品と文学作品の「価格決定のメカニズム」の違いについてまとめたものです。空欄アにあてはまる内容を、十五字で書きなさい。また、空欄イにあてはまる言葉を、本文中から五字で書き抜きなさい。

絵画作品	オリジナルが一枚しか存在しないので、 ア によって、取引きされる価格が変わる。
文学作品	価値と価格の対応関係がほとんど存在しないので、 イ をもつ作品と認められても、その価格は一般の書物と変わらない。

ア

イ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

問4 ③「生産の場」によって社会的に形成された一種の神話、ブルデュー言うところの「信仰」にすぎないとありますが、これを説明した次の空欄にあてはまる内容を、**付与**、**共通**の二つの言葉を使って、四十五字以上、五十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。

普遍的真理であるかのように思われている芸術作品の価値は、

□□□

にすぎない、ということ。

問5 筆者の論の展開や表現の仕方について述べた文として**適切でないもの**を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 筆者は、最初に絵画作品の価値について問題提起をしたうえで、読み手に対する「問い」を繰り返しながら、芸術作品の「客観的な価値」を決定することの難しさを述べている。

イ 筆者は、芸術作品の「客観的な価値」を、「主観的」という言葉と対比しながら定義し、「誰にとっても等しく同じ価値を有する」ことが、芸術作品の本質であると述べている。

ウ 筆者は、ゴッホの『ひまわり』やゲーテの『ファウスト』などの作品を例に挙げながら、芸術作品にあらかじめ内在する「客観的な価値」について、その存在を否定している。

エ 筆者は、芸術作品の価値についてはピエール・ブルデューの考えを、「客観性」のはらむ曖昧さについてはセオドア・M・ポーターの考えを引用しながら論を展開している。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

四

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

蔡順（さいじゅん）は、※汝南（ぢよなん）といふ所の人なり。※王莽（わうばう）といへる人の時分の末に、天下おほきに乱れ、また飢渇（けかつ）して、食事に乏しければ、母のために、桑の実をＡ拾ひけるが、熟したると熟せざるとを分けたり。この時、世の乱れにより、人を殺し、剥（は）ぎ取りなどする者ども来（きた）つて、蔡順に①問（と）ふやうは、「何とて二色（ふたいろ）に拾ひ分けけるぞ。」と言ひければ、蔡順、「一人の母を持てるが、この熟したるは、母に与へ、いまだ熟せざるは、わがためなり。」と語りければ、心強き不道の者なれども、かれが孝を感じて、米※二斗（と）と牛の足一つ与へてＢ去りけり。その米と牛の腿（もも）とを母に与へ、またみづからもつねにＣ食すれども、一期（いちご）の間、尽きずしてありたるとなり。これ、②孝行のしるしなり。

（「御伽草子集（おとぎざうししふ）」より）

（注）※汝南（ぢよなん）……中国の地名。
※王莽（わうばう）……古代中国の政治家。
※二斗（と）……約三十六リットル。

問１　傍線Ａ～Ｃの主語を、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を書きなさい。なお、同じ記号を何度使ってもかまいません。

ア　蔡順（さいじゅん）　イ　王莽（わうばう）　ウ　母　エ　人を殺し、剥（は）ぎ取りなどする者ども

Ａ ［　　］

Ｂ ［　　］

Ｃ ［　　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問2　①問ふやうはとありますが、この部分を「現代仮名遣い」に直し、すべてひらがなで書きなさい。

問3　②孝行とありますが、ここではどのようなことをいいますか。次の空欄にあてはまる内容を、十字以内で書きなさい。

蔡順が、桑の実を二種類に分けて、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿を与えようとした、ということ。

問4　次は、この文章を読んだあとの先生とSさんの会話です。空欄 Ⅰ にあてはまる内容を、本文中から二十字で探し、そのはじめの五字を書き抜きなさい。

Sさん「先生、この文章を図書館で調べたところ、次の漢詩を見つけました。」

黒椹奉親闈（黒椹親闈に奉ず）
啼飢涙満衣（飢ゑに啼いて涙衣に満つ）
赤眉知孝順（赤眉孝順を知つて）
牛米贈君帰（牛米君に贈つて帰らしむ）

先　生「この漢詩は、文章と同じ題材についてよんだもので、文章の中に対応する部分があります。例えば、漢詩の『赤眉知孝順』は、文章の中のどの部分に対応しますか。ちなみに、『赤眉』は、ここでは『人を殺し、剝ぎ取りなどする者ども』のことですよ。」

Sさん「わかりました。文章の中の『 Ⅰ 』の部分ですね。」

先　生「そうです。その通りです。」

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

五

以下は、ある中学生が「世の中のできごとや動きに関する情報を得るために最も利用するメディア」について発表した資料の一部です。

国語の授業で、この資料から読み取ったことをもとに「メディアの利用」について、一人一人が自分の考えを文章にまとめることにしました。次の（注意）に従って、あなたの考えを書きなさい。

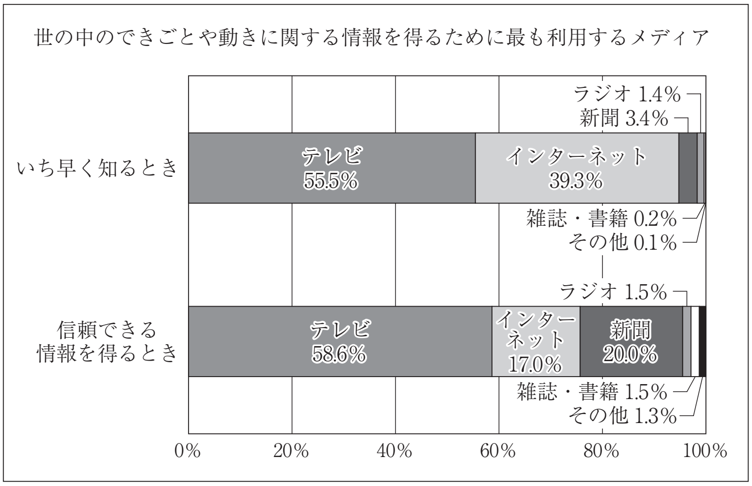
（注意）

(1) 段落や構成に注意して、自分の体験（見たこと聞いたことなども含む）をふまえて書くこと。

(2) 文章は、十三行以上、十五行以内で書くこと。

(3) 原稿用紙の正しい使い方に従って、文字、仮名遣いも正確に書くこと。

(4) 題名・氏名は書かないで、一行目から本文を書くこと。



総務省『平成27年情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査 報告書』から作成（平成27年調査）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

15　13

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

〈Note〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

二〇一七年度

埼玉県公立高校入試問題

一

解答

問1、ア　問2、人とぶつかり合うことを避けて自分の意見を言わず、優しい人間を装っている（35字）（同意可）　問3、私の名前を
問4、自分の気持ちを伝えるのは苦手だと言った唯奈が、私には本音を伝えられるようになっていること（44字）（同意可）　問5、ウ

解説

問1、「私は何をしたいんだろう」「二年前のあの日から、私はずっと現実から逃げ続けている」に着目する。「私」は高校一年生のときにNコンで大失敗してしまい、それ以来Nコンに出場しておらず、今年も出場を決めかねている。

問2、あとの「優しい人間を装うのは…優しい人間だと評する」に着目する。自分の優しさは思ったことを言わず、そのように見せかけているからだと考えていることをおさえる。

問3、「私」に原稿を添削してもらえたことが「嬉し」くて、「何度も」指で触れている唯奈の様子に着目する。同じように、「私」の助言を唯奈が「嬉しく」思って、大切に受けとめている様子が描かれている部分を探す。

問4、「私、昔から…私も変われるんじゃないかって、そう思って」という唯奈の言葉に着目し、唯奈は自分を変えたいと思っていたことをおさえる。そして、「私」との出会いを通し、「ストレートな感情」を「私」にぶつけられるようになっている今の唯奈の姿から、その変化をおさえる。

問5、「横断歩道に差し掛かったとき」の、唯奈と「私」の対照的な行動に着目する。ぱっと駆けだして「向こう側」へ渡り終えた唯奈は、「私」の助言からNコンでアナウンス部門に出ることを決め、初めて原稿を作り、「自分を変えたい」という思いのとおり「ストレートな感情」を伝えられるようになっている。一方、横断歩道で足を止めた「私」は、唯奈からNコンへ出てほしいと何度か言われてもその決心がつけられず、「二年前のあの日から…ずっと現実から逃げ続けている」とあるように、二年前から変われずにいることをおさえる。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二

解答

問1、(1) りんかく　(2) せんりつ　(3) た(つ)　(4) 簡潔　(5) 専(ら)　問2、エ　問3、ウ・カ　問4、ウ

問5、Ⅰ、イ　Ⅱ、そろえる

解説

問2、「いない」の「ない」とエは、「ず」「ぬ」に置き換えられるので助動詞。ア・イ・ウは置き換えられないので形容詞。

問3、アは上下の漢字が主述の関係。イは上の漢字が動作を表し、下の漢字がその対象を表している。エは上の漢字が下の漢字を修飾している。オは反意の漢字の組み合わせ。

問4、「飛んでいる」の「いる」は、本来の「存在する」という意味が失われ、「飛んでいる」全体で文の成分のひとつとなっている。

三

解答

問1、エ　問2、絵画につい　問3、ア、作品に対する社会的需要の大きさ（同意可）　イ、不変の価値　問4、作品の作り手が、創造的な力に恵まれた特殊な存在であるという共通の認識が形成されることで付与されたもの（50字）（同意可）　問5、イ

解説

問1、「その絵に本当にそれだけの『価値』があるのか…問われると、言葉に詰まってしまう人が多い」に着目する。筆者は「価格」と「価値」を同一視することに疑問を投げかけている。

問2、ブルデューの議論を参照し、作品の価値は「人間関係や社会的制度」の「力学作用の結果」として「付与される」ものだと説明したあとで、「絵画」の例を挙げている。

問3、ア、絵画作品の「オリジナルは一枚しか存在しない」ので、「それに対する社会的需要が大きければ大きいほど値はつり上がる」ことに着目する。イ、「価値と価格の対応関係」について、「価値ある作品として長く受け継がれているが…値段は一般の書物と変わらない」と述べている。「長く受け継がれている」はあとで、「彼らの作品は…継承されていく」と言いかえられている。

問4、「ブルデューの議論」については、「文脈ぬきで」で始まる段落で説明している。ブルデューが「『生産の場』のさまざまな力学

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

作用の結果として、その芸術家が…という共通の認識」を「信仰」と呼んでいることをおさえ、「芸術作品の価値」が「付与される」経緯をまとめる。

問5、名画や名曲などに「万人が共有する客観的な価値が内在しているわけではない」とした上で、芸術作品における「客観性」とは、「特定の局面に応じていかようにも規定されうる曖昧さ」をはらんでおり、「『誰にとっても同じ』客観的な定義を付与できないところにこそ…本質がある」と述べている。

四

解答

問1、A、ア　B、エ　C、ア　問2、とうようは　問3、母に熟した方の実（同意可）　問4、心強き不道

解説

問1、A、「母のため」に桑の実を拾った人物。B、蔡順の「孝を感じて」、彼に「米二斗と牛の足一つ」を与えた人物。C、もらった「米と牛の腿とを母に与へ」た人物。

問2、語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」にするので、「問ふ」は「とう」にする。「au」は「ô」と発音するので、「やう」は「よう」にする。

問3、「人を殺し、剝ぎ取りなどする者ども」が「孝を感じて」とあるので、蔡順が「桑の実を二種類に分け」た理由に着目する。「何とて二色に拾ひ分けけるぞ」と問われた蔡順は、「熟したるは、母に与へ」るためだと答えている。

問4、漢詩の「孝順を知つて」に着目し、これが「かれが孝を感じて」と対応していることをおさえる。

口語訳

蔡順は、汝南という所の人である。王莽という人の時代の末期に、世の中は大変乱れていて、また飢えと渇きに人々は苦しんでいて、食べ物も不足していたので、蔡順は母のために、桑の実を拾っていたが、熟したものと熟していないものとを分けていた。この時、世の乱れのせいで、人を殺し、追い剝ぎなどをしている者どもがやって来て、蔡順に尋ねて、「どうして二色に拾い分けているのか」と言うと、蔡順は、「母が一人おりますが、この熟した色のものは、母に与え、まだ熟していない色のものは、自分で食べるため

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

のものです」と語ったので、気の強い非道な者ではあるが、彼の孝行に感心して、米二斗と牛の足一本とを蔡順に与えて立ち去った。その米と牛の腿とを母に与え、また自分もつねに食べていたけれど、一生の間、尽きることもなくあったということである。これも、孝行の効験である。

五

解答

(例)

資料から、インターネットで最新情報を入手する人の割合は大きいが、信頼している人の割合はそれよりも小さいことが読み取れる。大きな犯罪や災害が起こったとき、ネット上に書きこまれたうその情報が個人を傷つけたり、混乱を引き起こしたというニュースを見たことがある。だれもがリアルタイムで情報を発信できるのがネットの利点だが、そこで見聞きした情報をそのままうのみにするのではなく、発信元や十分な根拠があるかなどを自分でしっかりと確認するべきだと思う。(15行)

解説

資料では、「いち早く知るとき」に利用するメディアと、「信頼できる情報を得るとき」に利用するメディアとで、「インターネット」と「新聞」が数値を大きく変えている。このことに着目し、その原因や問題点、あるいは今後の展望等を考えるとよい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。